

TAKE FREE

ご自由にお持ちください

つながる

Tsu-na-ga-ru

10月号
2024
October
No.19



SPECIAL REPORT

中日新聞「リンクト」
LINKED
plus+
病院を
知ろう

医療の高度化を進め、 より安全・低侵襲の手術へ。

高度な手術機能特集

CONTENTS

- 1 治療を学ぼう
- 2 チーム医療を知ろう
- 3 HOSPITAL NEWS

院長メッセージ

当院は地域の皆さまに最新の医療を提供するために、常に医療設備の更新や新規導入を進めています。今回は、脳神経外科の外視鏡システム、整形外科の人工関節手術支援ロボットの導入を取り上げ、手術治療の高度化がもたらすメリットや今後の治療方針について紹介しました。ぜひご一読ください。



SPECIAL REPORT

医療の高度化を進め、 より安全・低侵襲の手術へ。

高度な手術機能特集

整形外科と脳神経外科に、
新しい手術支援システムを導入。

CHAPTER 01

外視鏡システムと、 手術支援ロボットの活用。

2023年10月、三河地域で初めて、岡崎市市民病院の脳神経外科に外視鏡システムが導入された。これは、術野の様子を高解像度の4K3D画像にして55インチの大型モニターに映し、それを見ながら手術を行うシステム。これまで顕微鏡の接眼レンズを覗いて行っていたところを、大画面で組織や血管などを正確に確認しながら、医療器具を操作できるようになった。導入から1年弱を経て、脳神経外科医師の佐藤祐介に手応えを聞いた。「従来、顕微鏡で行っていた脳腫瘍などの手術はすべて外視鏡の手術に転換しました。脳手術の体位は仰臥位が最も安全性に優れていると思いますが、これまで病巣の位置によっては、患者さんに無理な姿勢や体位をお願いしていました。外視鏡ではカメラの位置を自由に変えられるので、仰臥位でできる手術が増え、それだけ安全性も高まります。また、大型モニターを見ながら、私たち医師は比較的低く姿勢で手術できますし、手術室の全員が同じ視野を共有できるので、ときにディスプレイが安全な状態で手術を進められます」と、佐藤は外視鏡のメリットを説明する。

同じように2024年、整形外科においても新たに人工関節手術支援ロボットを導入、8月から手術がスタートした。整

形外科の加藤大三統括部長は「ロボットの運用にあたり、私たち医師も十分なトレーニングを積んできました。まだ日も浅いですが、着実に症例を積み重ねているところですよ」と話す。ロボットを用いた手術はどこが違うのだろうか。「人工関節手術では、人工関節の位置や角度を計画通りに正確に収めることが重要な鍵を握っています。従来は、骨の軸に対して何度傾けて入れるか、私たちが手作業で設計図を描いていましたが、今はコンピュータが人工関節の入れ方を1ミリ・1度単位で正確に提案し、私たちがそれに修正を加えることで完璧な術前計画を立てることができるようになりました。手術中もロボットが計画通りに骨を削るよう補助し、手術の精度を担保できます」（加藤）。

COLUMN

●医療の高度化は、若い医師の教育機会の創出にも繋がっている。たとえば、脳神経外科の外視鏡システムでは、手術中の映像を助手の医師と共有しながら、指導に役立っている。

●「顕微鏡と違って、モニターに映し出された術野をピンセットなどで示しながら、へこがこうなっているからこうしよう」と実践的に指導できます。若手にとって非常にいい勉強になります。医療の質の向上にも繋がると思います」と、佐藤は話す。



医療の均質化と 低侵襲性を追求していく。

脳神経外科と整形外科、両科の手術の高度化の背景には、どのような狙いがあるのか。「一つは、医療の均質化です」と話すのは加藤である。「これまで医師のセンスや経験が担っていた部分をコンピュータが代行することによって、経験の浅い医師も同じ結果が得られるようになりました。少し大げさに言えば、これからは熟練した医師の技術に頼らなくても、誰でも高度で安全な手術を受けることができるわけで、市民の皆さんにとってそのメリットは非常に大きいと思います」。

もう一つのポイントとして佐藤があげるのが、低侵襲性の追求。すなわち、患者の体への負担の軽減である。「手術するときには、安全性を担保した上で、できるだけ小さな傷で最大の効果を出すことを目標にしています。その意味で、外視鏡のような高度な手術支援システムは大きな武器に

なります。第一に、大型モニターで小さな範囲も拡大して鮮明に観察できるので、開頭の範囲を狭く、傷を小さくすることができます。また、手術中の体位が安定するため、

術後の体の痛みも軽減します。患者さんの体への負担を軽減できれば、それだけ術後の回復もスムーズになり、入院期間の短縮や早期生活復帰にも繋がると思います」。その言葉に、加藤も同意する。「患者さんの退院後の生活を常に念頭に置くのは、私たち整形外科も同じです。ロボットを活用した人工関節手術では、術後の可動域を数字で明らかにできるので、これ以上動かすと骨が外れますよ」という注意事項を正しく理学療法士や看護師に伝え、リハビリテーションに役立てることができます。そうしたメリットを最大限に活用し、患者さんが一日も早く回復して日常生活を取り戻せるように支援しています」（加藤）。

医療の進化の先に、患者さんの生活復帰をしっかりと見据えながら、同院は今後も高度な医療を市民に届けていく方針である。

BACKSTAGE

合併症を抱えた患者さんに
高度な医療を提供する使命。

● 地域の中核病院である岡崎市民病院には、主疾患の脳や関節の病気以外に、心臓や肺などに複数の病気を抱えた患者さんが数多く紹介されて来院する。そういう場合も、同院は決して断ることはしない。高度な手術を行うと同時に、内科系の診療科と密に連携して全身管理を行い、患者さんの回復につとめている。

● すべての患者さんに最善の治療を。その市民病院の使命を果たすために、同院はこれからも医療の高度化を進めていく。



治療を学ぼう

今回のテーマ

周術期(術前・術後)の口腔ケア

周術期(術前・術後)の口腔ケアとは?

安心して手術を受けるために、
口の中の環境を整え良い状態を保ちます。

■ 感染症や合併症のリスクを抑え、早期の回復に繋げる。

我が国では、周術期の口腔ケアへの取り組みが進められています。周術期とは、入院、麻酔、手術、回復までを含めた術前・術中・術後の期間のこと。つまり、入院して手術を受ける前から、口の中の環境を整えて良い状態を保ち、感染症や合併症のリスクを抑え、早期の回復に繋げるというものです。

こうした動きを踏まえ、当院では、2012年から歯科口腔外科の歯科医による周術期口腔機能管理(周術期における口中チェック、治療・ケア)を実施しています。対象は、基本的に全身麻酔で手術を受ける悪性腫瘍の患者さんが中心です。近年では、人工関節の手術や緩和ケアを受ける方、集中治療センターで治療を受ける方が加わりました。



■ 安全な気管挿管の実施や口内衛生状態の確認。

周術期の口腔ケアについて具体的に説明すると、手術中は、人工呼吸のため気管挿管を行いますが、その際に器具を喉にかけて操作するため、歯がぐらついたり、取れたり、詰め物が落ちたりする危険があります(場合によっては手術延期の可能性もあります)。こうしたリスクのある歯には、カバーを被せる、隣の歯に固定するなどの処置が施されます。また、口内の衛生状態を確認し、プラークと呼ばれる細菌の塊を減らすなど、入院中に自分でのケアが難しい状況を考慮し、サポートを行います。これにより、術後の感染や発熱といった合併症を予防し、早期に口からの食事摂取が可能となり、体力の回復や退院を促進します。



Doctor's message



歯科口腔外科
 日本口腔外科学会認定
 口腔外科専門医
 藤浪 恒

口腔機能の低下はフレイルの一種。健康を口腔ケアから考えてください。

周術期の口腔ケアは、手術が決まった時点から始まりますが、歯科的な治療は応急的なものに限られます。対象となる患者さんを見て残念に感じるの、月や年を経て同じ患者さんが再び周術期を迎え、以前と同様の口内状態であることが見受けられることです。口腔機能の低下は、フレイル(虚弱状態)の一種とも言えますが、口内の日常的なケアは後

回しにされがちです。しかし、消化器という単位で考えると、口は玄関口にあたり、むせやすさや噛みにくさは全身の健康に直結します。健康維持には、口からのケアを大切に考えていただければと思います。



岡崎 の Team

チーム医療を知ろう

今回のテーマ

早期離床サポートチーム

より早くスムーズに、元の生活に戻っていただくために、多職種が集中治療室で患者さん一人ひとりをサポート。

退院後のQOL(生活の質)に影響を与える早期離床。

岡崎市民病院の早期離床サポートチームは、2018年に結成され、集中治療室(ICU)に入室した患者さんを対象に、48時間以内にリハビリテーションを開始する取り組みを行っています。このチームの目的は、患者さんの日常生活への早期復帰を促し、生命予後を改善することです。チームには、医師、看護師、理学療法士、臨床工学技士、薬剤師、管理栄養士、医事課の職員が参加し、毎朝、患者さんごとのカンファレンスを行っています。意識のない患者さんに対してもリハビリテーションを行い、人工呼吸器に関連した合併症の予防や全身状態の維持に努めています。意識のある患者さんには、座位、立位、歩行などを実施し、可能な限り早期に活動を開始させることで、QOL(生活の質)の改善を図っています。



多職種が自らの専門性を活かしてアプローチ。

早期離床サポートチームの活動は、多職種が緊密に連携し、患者さんのリハビリテーションを総合的に支援することを特徴としています。医師は、患者さんにとって最適かつ安全なリハビリテーションを指示し、リスク管理を徹底します。理学療法士は、離床に向けた具体的なリハビリテーションプランを策定し、実際のリハビリ介入を行います。看護師は24時間体制で患者さんの状態を継続的に観察し、リハビリテーションやケアを適切に進行させます。また、臨床工学技士は、人工呼吸器の管理を通じて、患者さんが安全に早期離床できるようサポートします。このように、各職種がそれぞれの専門性を最大限に活かしながら協力し合うことで、患者さんの早期退院に繋がる、人工呼吸器の使用期間が短縮されるなど、明確な成果が現れています。



Column



標準化・システム化された早期離床手順書。

早期離床には、ベッドに座る、起き上がる、立つ、歩く、さらには筋肉への電気刺激など、さまざまな動作や行為が含まれます。これらのリハビリテーションは、患者さんごとの病態に応じて段階的に進められます。その中心となるのが、離床プランや、人工呼吸器の管理、薬による鎮痛・鎮静管理など、各専門職が作成した早期離床の手順書です。この手順書は標準化・システム化されており、集中治療室のすべての患者さんに対して適用され、サポートが行われています。現在は集中治療室での活動に限定されていますが、今後は、HCUなど他の病棟にも早期離床のサポート活動を拡大していくことを目指しています。

プラス
a

秋の健康管理②

睡眠改善で疲労回復を!質の良い眠りを意識して体調を整えましょう。

HOSPITAL NEWS

未来の医療人を育て、充実した体験イベントを開催

2024年夏に開催した、高校生や看護学生向け体験イベントの様子をレポートします。

手術体験セミナー -for next surgeon- in 岡崎市民病院

2024年7月27日、高校生向けの「手術体験セミナー -for next surgeon- in 岡崎市民病院」を開催しました。21名の高校生が参加し、実際に現場で使用する手術支援ロボットによる手術シミュレーションや挿管技術などを体験しました。医師や看護師の指導のもと、最新の医療技術に触れることができ、外科医という職業に対する興味を深める貴重な機会となりました。



高校生メディカルスタッフ体験・見学

病院では医師、看護師以外にも多くの専門職が働いているのをご存じですか？ 当院では、2024年7月30日に「高校生メディカルスタッフ体験」を開催しました。40名の高校生が参加し、診療放射線技師や理学療法士など10職種の中から2職種の体験・見学を行いました。医療機器の操作や患者さん対応を通じ、医療の重要性を学び、将来の進路を考えるきっかけになればと思います。



看護学生向けインターンシップ

2024年7月から8月にかけて「看護学生向けインターンシップ」を開催し、約100名の学生が参加しました。学生たちは看護師とペアで各セクションの患者さんのケアを体験し、午後には通常の実習では見られない部署の見学も行いました。貴重な経験を通じ、現場の看護を深く学ぶ機会となりました。次回は2025年2月から3月に開催予定です。詳しくはホームページに掲載しています。



20分で聞けちゃう！
旬の健康情報

エフエムEGAO「イブニングワイド」で
当院の医療スタッフが健康情報を発信！

「いまどき旬」コーナー 18:00～

10月17日(木) あなたの人生を変えてしまう脳卒中
その予防法
脳神経外科 統括部長 錦古里武志

11月7日(木) 肥満症治療の現在 岡崎市民病院
肥満症治療センターの取り組み
内分泌・糖尿病内科 部長 糖尿病センター センター長
肥満症治療センター 副センター長 滝 啓吾

12月19日(木) 当たり前だと我慢していませんか？
＝月経痛と月経前症候群のお話＝
産婦人科 統括部長 後藤真紀



エフエム EGAO
(76.3MHz)



これまでの
放送内容は
こちらから！



岡崎市民病院
公式ホームページ



Instagram



@okazaki.hp

X (旧Twitter)



@okazaki_hp

YouTube



岡崎市民病院

検索

岡崎市民病院
OKAZAKI CITY HOSPITAL

〒444-8553 岡崎市高隆寺町字五所合3番地1
TEL 0564-21-8111 <https://www.okazakihospital.jp/>

つながる
Tsu-na-ga-ru

2024 No.19 10月号

発行責任者／院長 小林 靖 発行／岡崎市民病院 広報戦略チーム
記事提供／中日新聞広告局 編集協力／プロジェクトリンク事務局 発行／2024年9月